

10月18日 家族らに囲まれ誕生日を祝う

青笹町の菊池ハナエさん100歳

菊池ハナエさんの誕生会が水光園で開かれました。本田市長が花束と記念品を贈呈すると、ハナエさんはにっこりと笑顔を見せました。大正4年に同町で生まれ、17歳で武雄さん(故人)と結婚。農業に励み、2男4女の子宝に恵まれました。現在は、ひ孫15人にも恵まれ、家族と穏やかに過ごしています。



市長から祝福を受けにっこりとほほ笑むハナエさん

10月10-11日 第41回遠野市産業まつり

自慢の特産品が一堂に会す

遠野蔵の道ひろばで行われた産業まつりには、市内外から47の企業・団体が出店し、訪れた13,500人は秋の味覚を堪能しました。JAによるもち振る舞いや、遠野職業訓練協会によるミニ上棟式などの催しが行われたほか、ステージでは市内の園児による踊りなども披露され、会場をさらに盛り上げました。



つくたてのもちを求めて長蛇の列ができました

10月3日 ばすぼる食育まつり

食について理解を深めよう！

身近な食について考え、食育の大切さを学ぶ「ばすぼる食育まつり」が、市総合食育センターで開かれました。学校給食の試食会や郷土料理のけいらん作り体験、サケの解体ショーが行われたほか、遠野中生が地域農家と協力して栽培した無農薬のアカダイコンを販売。参加した250人は食育への関心を深めました。



おいしい給食に笑みがこぼれます

9月30日 遠野西中で建設業ふれあい総合学習

建設業の魅力を体験しよう！

建設業への関心を高め、将来の進路決定に役立ててほしいと、県建設業協会遠野支部青年部会(菊池雅明部会長)が同校で体験学習を行いました。全生徒125人は、同会のメンバーから指導を受け、バックホーなど、さまざまな重機の操作を体験。生徒は、上手に操作が出来ると、顔をほころばせていました。



重機を操作し、建設業の魅力を体感する生徒

10月26日 「一番搾りとれたてホップ生ビール2015」初飲み会

今年も自慢のホップに乾杯！

同会があえりあ遠野で開かれ、参加したキリンビール関係者や市内のホップ農家ら300人は、爽やかなホップの味を堪能しました。2015年産は、例年以上に香りがよく、みずみずしい仕上がり。遠野ホップ農業協同組合の佐々木祝男組合長は「自慢のビールを心行くまで飲んでほしい」と笑顔で話しました。



とれたてホップ生ビールで乾杯！

10月22日 本市と南足柄市が災害協定締結

自治体連携で防災力強化

本市と神奈川県南足柄市は10月22日、大規模災害時における相互応援に関する協定を締結しました。協定内容は、災害時に▷救援物資の提供▷職員の派遣▷ホームページの代理掲載一などを行うもの。両市は今後、平常時から情報共有や後方支援活動の研究などを進め、災害に強いまちづくりを目指します。



南足柄市の加藤修平市長(左)と握手する本田市長

10月4日 第10回市内継走大会

各町のランナーが健脚を競う

第10回市内継走大会が今年も行われ、各町14人のランナーが、旧JA小友支店前から市民センターまでの59.3キロを、たすきでつなぎました。沿道には多くの人が駆け付け、ランナーに熱い声援を送りました。
【総合成績】
第1位=遠野町(5年連続16度目)、第2位=宮守町、第3位=松崎町



勢い良くスタートダッシュする各町のランナー

10月4日 フレッシュホップフェスト2015

遠野産限定のビールを心ゆくまで

遠野産ホップの魅力を伝える「フレッシュホップフェスト2015」(TKプロジェクト主催)が蔵の道ひろばで開催されました。会場では、今夏採れたての遠野産ホップを使用した数量限定販売の「遠野の華」(上閉伊酒造株式会社)などが提供されました。来場者300人は、爽やかなホップの香りに酔いしれました。

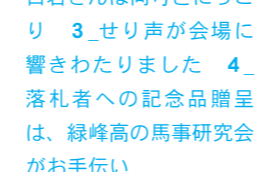


遠野産ビールを存分に味わいました

10月27日 遠野馬の里で乗用馬市場

遠野産駒に熱い視線

本州で唯一の乗用馬のせり市、第42回遠野市乗用馬市場が、遠野馬の里で開催されました。全国から駆け付けた購入者は、遠野産駒をじっくりと見極め、入札していました。
1歳~3歳馬28頭とポニー3頭が上場。19頭が落札され、合計取引額は1,888万円(前年度比3.1%減)でした。最高値は2歳馬のハヤテ号の275万円。同馬を生産した白岩與一郎さん(76歳)=青笹町=は「手塩にかけて育てたかいがあった。大変なことも多いけれど、遠野の馬事文化を盛り上げるためにも頑張って続けたい」と顔をほころばせました。



1_優雅に駆ける最高値のハヤテ号 2_生産者の白岩さんは同号とにっこり 3_せり声が会場に響きわたりました 4_落札者への記念品贈呈は、緑峰高の馬事研究会がお手強い

10月7日 バイマーヤンジン氏による国際理解講演会

子育ては国境を超えて

遠野ユネスコ協会創立45周年を記念し、チベットの歌姫バイマーヤンジンさんによる講演会が、あえりあ遠野で開かれました。ヤンジンさんは、「文化の違いを乗り越えた子育て」をテーマに講演。自身の体験談を交えながら「教育環境の充実が、将来の子どもたちの可能性を広げます」と訴えました。



子育て環境の充実さを熱弁するヤンジンさん

10月5日 JICA青年研修フィリピン農村体験

遠野の農業を学び自国に貢献

写真/NPO法人遠野山・里暮らしネットワーク 浅沼 亜希子
フィリピンの政府関係者や自治体職員ら16人が来日し、約2週間のプログラムを通じて本市の農業を学びました。同国が直面している農業の課題解決につなげるため、独立行政法人国際協力機構(JICA)が体験事業を実施。
参加者は、JAの野菜集荷施設の見学や民泊体験などに取り組みました。



農村体験後には全員で記念写真